

やりたいことを自由にさせてくれる沼田町と、 ここだけの物語を紡いでいます

村上信吾（むらかみ しんご）さん 沼田町地域おこし協力隊員

1976年紋別市生まれ。大学進学で東京へ。学生時代に外食産業やイベントスタッフの経験から「世界の東京」に魅了され、飲食店や美容室コンサルタント、広告代理店、外食産業の本部マネージメントを経て、飲食店経営で独立。都市開発による店舗閉店を機に、次のチャレンジの為、北海道沼田町へ移住。

管理業務をしている留萌本線、石狩沼田駅の前で

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。21回目となる今回は、沼田町の地域おこし協力隊員として、クラフトビール造りと沼田駅の活性化を行っている村上信吾さんです。

なぜ移住という選択をしたのですか？

今から4年前、東京暮らしが25年を過ぎたころに「今戻らないと北海道で暮らすことは難しいだろう」と感じました。末っ子長男であったこともあり、親と同居しないまでも近いところで暮らすべきだろうという責任がありました。また、子どもが4歳になり東京の公園では夏は暑すぎて滑り台で遊ぶことができないことに疑問を持ちました。自分がのびのびと遊んだ紋別のような環境が子育てをする上でふさわしいのではないかと考えたことがきっかけの一つですね。

移住先として、北海道はマストだったのですね

はい。北海道移住交流フェアなどへ足を運び、道内の複数の自治体の人との出会いがありました。そのなかで、せっかくなら「物語を作り出しやすい、自分の力で何かを生み出せる場所」で暮らしてみたいと思いました。土地の色とかイメージ、たとえば港町、農村、都会といった一言で言い表せない、特定の産業に偏っていない町がいいなと漠然と考えていました。

沼田を選んだポイントは？

決めるまでには数回沼田町役場の移住担当者と東京のフェアでお会いしました。毎回来られるのは別の方なのですが、共通してアピールされる言葉に“沼田っ子”がありました。子どもにやさしい町というのは他にもありましたが、子どもに程よい距離を持って関わってくれる大人が多いのではないかと感じ、この町には未来があると直感しました。また、飲食店を経営するなかでクラフトビールの可能性を実感していたので、ビー

ルを造りたいという夢を話したら、「沼田町でも数年前に地ビールの話が出たんですよ、やりましょう!」と、すぐに共感してくれたことも大きかったです。

ビール事業はどうですか？

移住してすぐに地元の青年団などが主催で、歓迎会を兼ねてクラフトビールパーティをしてくれました。勢いのある町に来てよかった嬉しかったと強く思いました。すでに六次化で成功していたトマトジュースの関係者から、搾汁機械さくじゅうのメーカーさんを紹介してもらい、その縁でニセコ町の醸造所や東京農大オホーツクキャンパスでビール造りを学べる事になりました。よき人に出会えて今は醸造免許取得に向け準備を進めています。

初年度は町民にクラフトビールを親しんでもらうための試飲会を行う「クラフトクラブ」の設置や、大雪地ビール（旭川市）や、美深白樺ブルワリー（美深町）への醸造委託などを行いました。コロナの影響でイベントがない2021年の夏には、「お持ち帰りマルシェ～おうち時間を楽しもう～」という、全道から人気キッチンカーの仲間を呼び寄せ役場前でイベントを行い、約千名の方が来場してくれました。2時間待ちのお店もあって飲食の力を再確認しました。

移住3年目、今のお考えは？

クラフトビールという新たな商品を作るなかで、旭川「のまさるビールイベント」で北海道各地の小規模ブルワリーの社長や工場長と出会えました。こうした場で移住者の先輩かつ経営者に出会い、これから進むべき道を見つけることができました。また、ビール造

りは地方創生につながることに気が付きました。そのビールをその土地で造る理由がなくはない、外から人を呼び込まなくてはならない。町内外でビールを売る仕組みも必要だと考えています。



沼田町産雪中米や、幌新地区の白樺の樹液を入れ、沼田を感じさせるビール



クラフトビール

地域おこし協力隊としてのミッションは？

沼田町は人口3,000人の小さな町ですが、今協力隊員が15人います。私はビール造りと、あと2年で閉鎖される沼田駅の運営が任務です。自由度が高くやりがいがあります。これまで沼田にいなかったような人が新しい風を吹かすことが地域おこし協力隊の役目の一つではないでしょうか。「今度の協力隊員ちょっと変わっているよね」と地元の人に思われて当たり前。3年後には結果を出すために、なかなか大変です。自分は、3年間は自分の責任での戦いであると感じています。

沼田の魅力とこれからの夢を教えてください

立地がいいですね。旭川まで50分、札幌までも2時間弱。仕事と遊びにメリハリがある人が多い。思いついたら、まずやってみようという挑戦することが当たり前という行動力がある人が多いですね。

沼田駅に来る旅行者と接していて、クラフトビールと鉄道マニアのコミュニティがかなり重なっていることに気が付きました。外の人から見ると駅があるかないかは、その町に行くか否かの判断材料として大きいようです。その地域を感じる場所としての駅、人と交流する最初のポイントとしての駅、そこにクラフトビールを飲める場所があってもいいような気がします。沼田町への滞在時間を1分でも長くするために、トイレ、見るべきもの、体験すること…とコンテンツを増やしていきたいです。（2023年3月取材）

インタビュー後記

東京で経営されていたカフェレストランに一度お邪魔したいと5年前から考えていました。すると移住して、ビール醸造に携わっていると知ったのが2022年12月でした。そのビールは、テスト価格として250円で町内の小泉商店、小西商店、春木商店、中山商店の4店舗のみで販売。生ビールもほろしん温泉や一部料飲店で飲むことができるそうです。道北のいかした面々となつなつてきつ面白いことをやってくれそうな村上さんに会いに行かなくては。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表